

平成29年度 学校評価 学校関係者評価書

学校名 北海道札幌北高等学校

組織名 学校評議員会
 評価者
 H30.2.21
 学校評議員 5名

1 本年度の重点目標

- (1) 生徒一人一人の志望を大切に、その実現への援助に努める。
- (2) 特別活動の充実に努め、21世紀を担うリーダーとしての社会的資質を高める。
- (3) 教師自ら新しい学びの開発に向けた資質の向上を目指すとともに、学校課題を共有し、協力して課題解決に当たる。
- (4) 積極的な情報発信と説明責任を果たすことにより、保護者との連携を深め、地域社会の信頼に応える学校を目指す。
- (5) 学習指導要領の改訂及び新しいテストの実施に向けて研修を深めるとともに、実践を重ね共有する。

重点目標の適切さ

2 自己評価結果及び自己評価結果に対する学校関係者評価

| 評価項目・指標等 | | 達成状況 | 取組の適切さ | 改善の方策 | 自己評価の結果の内容の適切さ | 取組の適切さ | 今後の改善の方策の適切さ |
|------------------|---|------|--------|---|----------------|--------|--------------|
| 分野・領域 | 評価項目 | | | | | | |
| 学校運営に係ること | 北高教育の継承と方向性の提示がなされたか。 | B | B | 本校教育の方向については保護者・教職員とも概ね評価は高いものの、より高いレベルを求めて教育活動を推進する必要がある。 学校課題に対する校内体制については、必要により分掌横断的で柔軟に組織を編成して取組を推進する。 | A | B | B |
| | 教育目標達成に向け、校内体制は適切であったか。 | B | B | | | | |
| | 校務分掌等校内人事配置は適切に行われたか。 | B | B | | | | |
| | 教職員との対話が推進され、協働意識が形成されたか。 | B | B | | | | |
| 評価者の意見等 | 校内体制については、引き続き丁寧に取り組んで欲しい。 | | | | | | |
| 学習指導に係ること | 授業・時間割は適切に運用されたか。 | A | A | 授業時数の管理はこれまでの取組を継続する。 主体的・対話的で深い学びを踏まえた授業改善については、これまで指定事業で取り組んだ成果及び次期学習指導要領や大学入試改革の動向を踏まえながら、積極的に推進する。 | A | A | A |
| | 教科指導の組織的な創意工夫により、生徒の学習意欲向上がなされたか。 | B | A | | | | |
| | 主体的・対話的で深い学びに係る取組が組織的に行われたか。 | B | A | | | | |
| | 高大連携に関わる取組は適切に行われたか。 | B | B | | | | |
| 評価者の意見等 | 本校に最も期待される項目において、対外的に高い評価が得られたことは素晴らしい。引き続き取組を進めて欲しい。 | | | | | | |
| 生徒指導・いじめの対応に係ること | 生徒理解のための面談や教育相談が組織的に行われたか。 | A | A | 教育相談や生徒会活動はこれまでの取組を継続する。 いじめについては学校基本方針の見直しとともに、未然防止に係る取組を整理し、丁寧に情報発信を行う。 | A | A | A |
| | 生徒会活動や学校行事を通じて自主・自立の精神が養われたか。 | B | B | | | | |
| 評価者の意見等 | 適切な指導がなされていることが感じられる。 | | | | | | |
| 進路指導に係ること | 生徒一人一人の進路目標達成に向けた支援が組織的に行われたか。 | B | B | 保護者・教職員のアンケートからは概ね達成されていると判断できるが、発信する進路情報については、生徒の進路希望状況を踏まえて工夫していく必要がある。 | A | B | B |
| | 進路実現に関する有用な情報が、適時に提供されたか。 | B | B | | | | |
| 評価者の意見等 | 引き続き丁寧に取り組んで欲しい。 | | | | | | |
| 健康・安全指導に係ること | 校内の危機(事件・事故等)管理体制は整備されたか。 | B | B | 生徒玄關施設管理など不審者対策は油断せず継続する。 日常の清掃に加えて、トイレなど専門業者による特別清掃の実施を検討する。 | B | B | B |
| | 日常の清掃活動は十分に行われたか。 | B | B | | | | |
| 評価者の意見等 | 校内の清掃や環境美化については、生徒会による取組を図ることが有効ではないか。 | | | | | | |
| 信頼される学校づくりに係ること | PTA・後援会・庁立北高会・同窓会との連携は適切に行われたか。 | B | B | 関係団体との連携は円滑に実施できており、継続する。 学校Webページや学校説明会による情報発信を継続する。 | B | A | B |
| | 学校広報活動は適切に行われたか。 | B | B | | | | |
| 評価者の意見等 | 特になし。 | | | | | | |
| その他 | 本校に対する満足度(保護者) | A | A | 98%の保護者が本校に入学させて良かったと回答しているが、そう思わない保護者の理由を把握して改善に努める。 | A | A | A |
| 評価者の意見等 | 保護者の満足度が高いことは、生徒の満足度にも繋がる。 | | | | | | |

A: 十分である。適切である。 B: ほぼ十分である。概ね適切である。 C: 不十分である。やや不適切である。 D: 改善を要する。不適切である。

3 次年度以降の目標設定等に反映させる自己評価結果及びその改善方策事項

- ・保護者アンケートの「主体的・対話的で深い学び」に係る項目において「評価しない」または「わからない」との回答が20%を超えていることから、この2年間の指定事業における取組を活かしながら、授業改善を推進する。
- ・保護者アンケートのいじめの未然防止等に対する取組に係る項目において「わからない」との回答が30%程度もあったことから、いじめに対する基本的な方針やアンケートなど取組の状況について、丁寧に情報発信を行う。
- ・保護者アンケートにおいて進路指導に係る保護者への情報提供についてはより幅広く行って欲しいとの意見があることから、生徒の進路希望状況を踏まえて情報の内容を見直しながら行う。

評価者の意見等

適切である。価値観が変わって行く中で様々な対応には困難があるが、学校として頑張ってもらいたい。